

石巻市の復興まちづくり (第48回)

このコーナーは、市の今後の復興まちづくりに関する情報をお知らせします。
今回は、市立病院完成までの軌跡を紹介します。

医療拠点の再生

～市立病院完成までの軌跡～

東日本大震災で甚大な被害を受けた市立病院が、今月1日に新たに開院しました。被災前の南浜地区から JR 石巻駅や市役所が立地する本市の中心地に移転することで、安全性や利便性の向上が期待されます。市立病院の開院にあたり、これまでの事業の取り組み、完成までの軌跡についてご紹介します。

被災概要

旧市立病院は、1階部分が壊滅的な被害を受け、建物では全体の32%に相当する約4,200㎡、19億2千万円の損害となり、自家発電や空調設備等中央監視設備の機能が失われたことにより、全ての医療機能が停止することとなりました。

被災当時、入院患者153人、職員(委託業者含む)233人および見舞客並びに避難者66人、計452人が孤立し、そのうち入院患者については、DMAT(災害派遣医療チーム)のドクターヘリと自衛隊ヘリにより移送を行い、被災後4日目には職員の脱出も完了しました。



▲被災前の旧市立病院



▲被災状況

被災からの復旧計画

沿岸部に位置していた市立病院は、内陸部の JR 石巻駅前に移転することとなりました。



建設工事の様子

平成26年10月から工事を開始し、12月から建物本体を支える杭打ち工事、平成27年に建物の骨組み工事、内部のフロア工事、平成28年は内装工事と順調に工事が進められました。

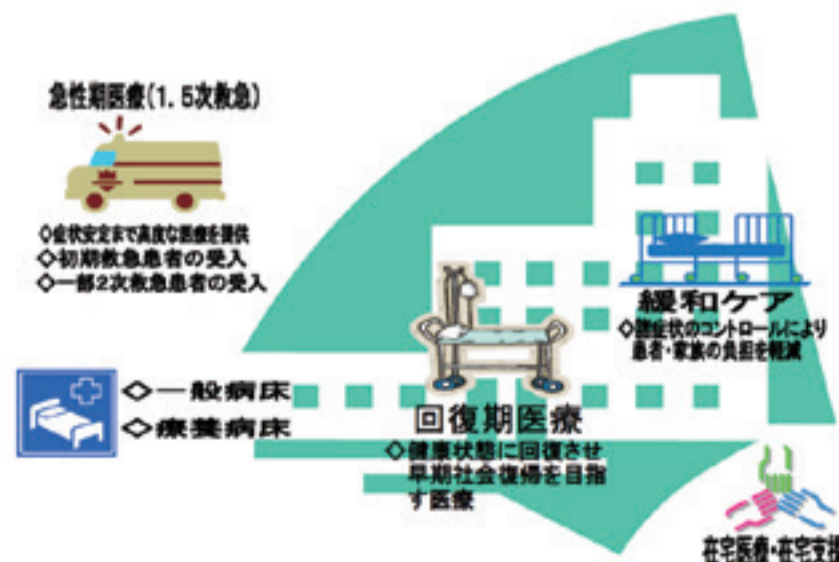


新市立病院コンセプト (基本計画から)

人に寄り添い、地域に寄り添い、患者を中心にその家族、医療関係者の間で開かれたコミュニケーションを図ることにより、市民に身近な病院として機能する「市民にひらかれた病院」をコンセプトに、石巻赤十字病院との機能分化、連携強化を図り、また、石巻市立の診療所および各医療機関との連携を強化することで石巻医療圏で切れ目のない医療提供体制を構築し、医療を通じて市民が安心して暮らせる地域社会の実現に向けて良質の医療を提供します。

施設機能

新病院は、急激な症状悪化を防ぎ、状態が安定するまで適切な医療措置を行う「急性期医療」、一部2次救急患者を受け入れる「1.5次救急」、健康状態に回復させ早期社会復帰を目指す「回復期医療」、痛み等の諸症状コントロールにより患者および家族の負担軽減を図る「緩和ケア」、家族とともに豊かな時間を過ごせる「在宅支援」の実施により、石巻医療圏において切れ目のない医療提供体制を目指します。



基本設計

基本計画によって定めた考え方に基づいて、具体的な建築図面等を作成する段階です。

主な決定事項

- 各階の平面計画
- 建築のデザイン(立面等)
- 車両の出入りルート等

建築立面



実施設計

基本設計で作成した各種図面等を基に、実際の工事を行うにあたって使用する図面を作成する段階です。

主な決定事項

- 工事のための材料決定
- 工事車両の搬入ルート決定等

将来的な計画

将来的には、市立病院の南側に包括ケアや市民の交流の場となる「(仮称)ささえあいセンター」、市役所の東側に防災機能を兼ね備えた「(仮称)防災センター」を整備し、医療・行政・防災の拠点としてコンパクトな市街地を目指します。

